

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-3-1 人権施策の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

人権同和对策課長 池尻 隆

電話番号

0852-22-6378

事務事業の名称	人権啓発指導者養成事業	
目的	(1) 対象	市町村担当職員・公民館長等社会教育施設職員・各種団体指導者等
	(2) 意図	人権・同和教育への理解と認識を深め、指導力の向上を図る。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域指導者養成講座の開催・・・基礎講座、専門講座、隠岐講座、地域中核指導者養成講座、地域中核指導者連絡協議会、公民館等関係者研修 ・団体指導者養成講座の開催（委託事業）・・・人権・同和問題を考える女性の集い、同和問題青年団体研修 	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	地域中核指導者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		192.00	200.00	208.00	216.00	
式・定義	人権・同和教育地域中核指導者養成講座修了者数	実績値	184.00	194.00	202.00	213.00		人	
		達成率		101.00	101.00	102.50		%	
指標名			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,155	2,158
うち一般財源(千円)	2,155	2,158

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	(未選択)
---------------------	-------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

毎年、成果指標は達成できています。昨年度から、基礎講座を東・西部の2会場での実施や隠岐講座の新設により、地理的に参加しやすくすることにより底辺の拡大や波及効果をねらっているところである。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・基礎講座を2会場にした結果、受講者数が前年に比べH26は約2倍に増加した。
- ・隠岐講座も会場の知夫村を中心に、行政や公民館職員の研修として積極的に参加を働きかける動きがあった。
- ・地域中核指導者養成講座への受講者増にもつながった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・市町村によっては、行政職員研修や公民館職員の研修などとして位置づけるなど、本事業が積極的に活用されているが、取り組み状況に差も生じている。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・市町村によって、組織や研修体制等が異なる。
- ・本事業の趣旨・内容についてが周知が図られていない。
- ・同和对策事業が一般対策に移行したことによる取り組み意識の低下。

③原因を解消するための「課題」

- ・事業の広報・周知を徹底。
- ・地域づくり・人づくりの基盤としての人権・同和教育の意識付け。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・市町村担当者会議や市町村訪問などを通して、本事業や人権・同和教育を通じた取り組みの成果等についての周知と意見交換を行う。
- ・本事業における講座内容の充実を図り、受講者の満足度と実践成果の向上を目指す。
- ・ホームページやチラシ、各種会合でのPR等、広報周知の機会や方法を工夫する。
- ・地域のニーズや地域での取り組みに即した事業となるための情報収集や意見交換に努める。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）